

数学

立命館大学 薬学方式 (2/2実施)

<全体分析>

試験時間	100 分	解答問題数	4 題
------	-------	-------	-----

解答形式

空所補充形式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・**増加**)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

すべて空所補充形式で、計算量が多い。

その他トピックス

IV [3] の \square は、大学が想定していた解は2のみであると思われるが、2以外にも解は無数に存在する。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I [1]	整数	数A	$n!$ の素因数の個数	標準
[2]	指数・対数関数	数II	条件付きの最大・最小問題	やや易
[3]	図形と方程式	数II	条件を集合の包含関係で考える	標準
II	微分法・積分法	数II	絶対値付きの積分で表される関数 3次関数のグラフと接線で囲まれる図形の面積	標準
III	平面ベクトル 三角関数	数B	正7角形の計量問題	やや難
IV	確率 数列	数A 数B	確率を漸化式を用いて考える	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題の意図を的確に読み取る力や煩雑な計算を最後までやる切る力が問われている。一方で典型問題も多く出題されているので、標準レベルの問題集を繰り返し解いて基礎を固めた上で、さらに発展的な問題、融合問題に対応できるよう過去問を用いて練習しておこう。